

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 各務原高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和7年1月28日(火) 13:00~15:00
- 3 開催場所 各務原高等学校 会議室
- 4 参加者

	会 長	長倉 守	岐阜大学大学院教育学研究科准教授
	副会長	小川 陽子	新生こどもえん園長
	委 員	丹羽 文雄	各務原市立中央中学校長
		古田 希雄	各務原市 市長公室 次長
		堀 善子	各務原市 市民生活部 税務課長
		鈴木美恵子	本校PTA副会長
	学 校 側	野々山伸一	校長
		堀 卓也	教頭
		杉山 秀謙	教頭
		武藤小百合	事務長
		美濃輪智彦	教務主任(欠席)
		橋本 純	生徒指導主事
		水野 里美	進路指導主事
		武藤 俊平	研修主事

5 会議の概要(協議事項)

(1) 令和6年度 学校運営協議会の開催状況

(2) 令和6年度「教育指導の重点及び学校経営計画」の自己評価について

意見1: 生徒をどのように育てていきたいか、どんな生徒に育ててほしいかという目標に向かって、職員が個性を生かしながら活動していくことが求められている。スクール・ポリシーをどのように学校経営に位置付けていくのか。ICTを活用している先生方が、どれだけカリキュラム・ポリシー(CP)を意識して、実現するためにやっているかが問われているのではないかと。スクール・ポリシーを生徒に開示することで、「各務原高校ではこんなことが学べる」「先生方はこんな願いをもって指導している」ということが伝わり、自分は何をすべきかを生徒が考えて実行する主体性が生まれるのではないかと。

意見2: 評価をするにあたって、目標値(指標)があるとどこを目指すかがわかりやすい。中間報告の際に、目標達成に向かっているのが明確になり、必要ならばさらなる手段や対策を考えたり、修正したりできるのではないかと。

意見3: 自己評価がすべてBということで、たいへん謙虚な評価になっているように思う。取組状況や達成状況、成果など見る限り、Aとしてもよい部分があるのではないかと。

意見4: 目標を掲げるのであれば、生徒に対してしっかりと「見える化」することで、生徒の意識も変わるのではないかと。今回の遅刻数の減少がよい例である。

(3) 各分掌等からの報告

- | | | | |
|---------------------|----------|---------|---------|
| ① 教務部 | ② 生徒指導部 | ③ 進路指導部 | ④ 特別活動部 |
| ⑤ 保健厚生部 | ⑥ 図書・情報部 | ⑦ 教育相談部 | ⑧ 渉外部 |
| ⑨ 総合的な探究の時間(ふるさと教育) | | | |

- ・今年度の取組状況及び実践内容
- ・今年度の成果と課題
- ・来年度に向けての改善策等

- 意見1：第2回学校運営協議会で出た「中学生がどこまでICTを活用することができるのか、授業でどのように活用しているのか、是非とも各務原市内の中学校を参観してみてもどうか。」という意見に対し、学校として中学校への訪問を早急に計画し実行されたこと、そして全職員が忙しいスケジュールの中、参観を行ったということは、会議での意見がしっかりと反映されておりありがたい。
- 意見2：各分掌が「スクール・ポリシーとの関わりや貢献」を前面に出すことで、それぞれがスクール・ポリシーどのように受け止めているかを宣言し、見えるようにするとよりよい。
- 意見3：総合的な探究の時間におけるテーマ設定については、集団を大切にすると個が失われ、埋もれていく部分については仕方がないところである。その折り合いの中で、コンテンツよりも目標を大事にして、ここからどんな力がつけばいいのか、生徒の中で納得感があればよい。
- 意見4：中学校では、文房具を使うようにタブレット(iPad)を使うことを目標に、これまでどんどん活用してきたが、現在はただ使うだけでなく、その場面で使用する必要があるのか、効果的なのかを考える段階に来ている。高校でも教える知識、内容が多い中で、ICTの活用については研究、検討していく必要がある。
- 意見5：職員会議を利用して、全職員で生徒情報を共有して、組織で対応していることが素晴らしい。身だしなみ(服装やメイクなど)を指導するのがたいへん難しい中、なぜだめなのかをしっかりと説明する必要がある。時間を守る、ルールやマナーを守るという部分については、学校は人を育てる、人間性を磨く場であるとして、大切にしていきたい部分である。
- 意見6：入学試験の面接が、初めて自分の夢や目標をしっかりと考え、自分を見つめるきっかけになる。
- 意見7：総合的な探究の時間は、生徒に必然性を与え、モチベーションをあげることをいろいろな場面で大切にしてほしい。「やりたい、やらなきゃ、おもしろい」と生徒に思わせることができるかがポイントになる。
- 意見8：今の若い子たちは自分で考えることが苦手である。言われたことはそのままやることはできるが、それに関連したことを少し考えて $+\alpha$ で行動することができない。進路指導部の目指す「自ら考え表現する力」が本当に必要である。高校では基礎学力を付けたうえで、そこに $+\alpha$ の力を身に付けてほしい。
- 意見9：共通テストに教科「情報」が入ってきたが、ICTの活用はリンクしているのか？
⇒教科「情報」は、単にパソコン操作を教える教科ではなく、情報社会の問題やプログラミングなど、情報活用能力を総合的に学ぶ教科ですので、関係は限定的です。
- 意見10：ふるさと教育で図書館に若者の息吹を入れる取り組みをしていたが、ぜひ今後も継続してやっていただきたい。若者が本を読む習慣を身に付けるためには、まず図書館に来てもらわなければいけないという状況の中で、魅力ある図書館づくりを進めていくために、各務原市役所にもご協力いただきたい。
- 意見11：ふるさと教育のテーマがどんどんと増えていく中で、今年度取り組んだテーマについて、次年度に継続して取り組み、積み上げていく形もあっていいのではないかと。

意見 12 : 総合的な探究の時間で、ただ話を聞いただけで終わらず、そのあと行動に移すところまで取り組んでいるところが素晴らしい。市側としても若い方の意見を大切にしたいと考えているので、活動の中で出た意見や疑問を市役所や市長に投げかけていただけるとありがたい。

意見 13 : 遅刻数が本当に減少していて、今年度の遅刻指導が非常に素晴らしい。

意見 14 : 教員数の減少や働き方改革など、苦慮されている部分を感じる。ふるさと教育についても前年よりも良いものにしようとすることで負担増になっているのではないかと。先生方の手厚い援助は素晴らしいのだが、支援団体などの援助を受けることで、負担を減らしていくことはできないか。商工会議所の青年部など学校と関わりを持ちたいところはあるのではないかと思います。

(4) 「高等学校に期待される社会的役割等 (スクール・ミッション)」の策定について

意見 1 : 1 文目で「～『高校』として」とあるのに、3 文目が「～を目指す『学校』」で終わるのは違和感がある。3 行目は「～育成を目指す」「～育成する」という表現で終われないのか。

⇒構成は県下統一であるが、違和感があるのご指摘をいただいたことは最終報告で意見として提出させていただく。

意見 2 : これまでは普通科というイメージしかなかったものが、スクール・ミッションによって県民により詳しく学校の個性が伝わるので、これに向かってどのように学校づくりをしていくか、スクール・ポリシーを絡めながら進めていただきたい。